

「学習成果発表会」を開催しました

1月14日（金）に『学習成果発表会』を開催しました。当初の予定では学校関係者の皆様にもご来場していただき、発表を聞いていただくこととしていました。しかし新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から外部の方の案内は中止としました。

学習成果発表会は、それぞれの学年で1年間取り組んできた学習の成果を発表するとても大切な発表会です。邇摩高校グランドデザインで示しているところですが、邇摩高校3年間で生徒の皆さんに身につけて欲しい資質・能力として「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つを挙げています。社会に出ると、「自ら課題を発見し、その課題を解決するために考え行動する。そして人と協働しながら解決していく。」力が必要となります。

発表した1年生の「産業社会と人間」、2年生の「進路設計」、3年生の「課題研究」での学びは、まさにこの4つの資質・能力を総合的に身につけるための柱となります。どの発表もわかりやすくまとめられており、学習の成果を伺うことができました。そしてこの発表会を通して、生徒の皆さんの成長を感じられたことがとてもうれしく思いました。

本校は1年次から地域と連携した学習を多く取り入れています。そして3年の課題研究では、系列の学びを生かしながら地域課題を見つけ、その課題解決に向け取り組んでいます。今回の発表で最優秀賞となった発表は、ビジネス系列の「続・アナゴPR」と生活系列・保育モデルの「スマホ・ゲーム機との付き合い方」の2つの発表でした。2つの発表の概要を紹介します。

- 大田市は、アナゴの漁獲高が日本一を誇ります。その地元のアナゴをPRするために地元企業やローソンと連携し商品開発を進めているところです。一方で、地元の蒲鉾店とも連携し、蒲鉾の原材料を使用したお菓子の開発にも携わり、「かまぼこ屋さんのマッスルチップス」を商品化することができました。この商品は、今月末にオープンする道の駅「ごいせ仁摩」で販売予定です。
- 現在スマホやゲーム機を所持する年齢も低年齢化し、長時間使用することによる健康被害が問題となっています。全校生徒にアンケートをとるとスマホの使用開始時期は13～15歳のころが最も多かったです。このことから、スマホ・ゲーム機の正しい使い方を子ども達にも知ってもらい、スマホ・ゲーム機依存症の子どもを減らしたいという思いから、保育実習を行う際に園児に対してスマホ依存症の影響をスケッチブックシアターにして上演会を計画しました。上演のあとに振り返りをクイズ形式で出題しました。園児達の反応もよく、「僕、ルール守っているよ!」という発言もあり、使い方を意識してくれている園児もいることが分かりました。幼い時から知ってもらうことでスマホやゲーム機の使用ルールへの理解が深まることを期待しています。

この2つの発表は2月8日に行われる島根県の総合学科発表会に出場することが決まりました。また、優秀賞となったビジネス系列の「ゲームを使って大田市をアピール」は「おおだ教育月間」で2月末に銀山テレビで放映されます。また、2年生の「石見銀山の環境と歴史について」が2月4日の「しまね探究フェスタ」に出場します。

